

山王台だより 3月号



横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

子どもに学び、子どもと共に成長する

校長 志田 一彦

学校の桜の木々の花芽が膨らみはじめ、季節の移ろいを感じる時期になりました。春はすぐそこまでやってきました。今のクラスで過ごすのも、あとわずかとなってきました。

授業中、各クラスの様子を見てまわると、様々な光景を目にします。先生と子どものやりとりを微笑ましく感じたり、子どもの発言に興味深く聞き入ったりと、この1年間の子どもの成長に驚くばかりです。そして、私自身、もう、担任として授業ができないことに一抹の寂しさも感じています。

自分の担任時代を振り返ると、実に様々な出来事がありました。失敗もたくさんしましたが、職場の同僚や保護者の方々、そして、何よりも子どもたちに助けられながら教師として一步一步成長してきたように思います。

忘れることができないのは、教師になった1年目の出来事です。私は、1年生の担任になりました。大学を卒業したばかりで、まだ、何も分からない新米教師と初めて学校生活を体験する1年生との出会いは、毎日がドラマの連続でした。

私が着任した学校は音楽の研究をしており、横浜市の先生方に向けて音楽の授業発表をすることになっていました。経験の浅い私は、それをとても不安に感じ、子どもたちが楽しく学習できるように内容を考えたり、オルガンの練習をしたりと、四苦八苦しながら準備を進めていました。発表会当日、子どもたちはいつも以上に頑張り、これまで積み重ねてきたことを発揮して授業を終えました。

翌朝、教室に入ると、すぐに大勢の子どもたちが私に駆け寄ってきました。そして、「先生、昨日どうだった?」「何か言われた?」と心配そうな顔で尋ねてきました。

私は、「みんなが一生懸命頑張ってくれたから、誉められたよ。」と答えました。すると、教室から大きな歓声が上がリ、満面の笑顔で「先生、よかったね。」「よかったね、先生。」と弾むような声が返ってきました。子どもたちは1年生なりに私の不安を察し、心配してくれていたのです。

私は、その気持ちに応えようと、一生懸命に笑顔をつくらうとしたのですが、自分のことのように喜ぶ子どもたちの姿に胸が熱くなり、「ありがとう。」とひとこと言うのが精一杯で、涙が溢れて何も言えなくなりました。私の教師としての原点の出来事でした。

今日もそれぞれのクラスで様々なドラマが繰り広げられています。熱いドラマもあれば、穏やかなドラマもあるでしょう。時には、辛く、悲しいドラマがあるかもしれません。そのひとつひとつの積み重ねが、子どもたちの、そして、私たち教師の成長の糧となっています。子どもは、時として、私たちの教師にもなり得ます。

「子どもに学び、子どもと共に成長する。」そんな「チーム山王台」を目指して、これからも研鑽を積み重ねていきたいと思っています。

今年度の保護者、地域の皆様のご理解、ご協力に心から感謝申し上げます。

